

夜の陶板名画の庭で「古典」と「現代」が出逢い、輝く…。

京都北山

# 光の庭

GARDEN OF LIGHTING ARTS

“2020年への道”京都・北山 温故創新プロジェクト

2016 11/26(土) ~ 12/25(日)  
17:00~20:00

※12月12日(月)から14日(水)は展示替えのため休覧

前期 11/26(土) ~ 12/11(日)



高橋 匡太(アーティスト)  
「光の庭 SCENE of GENJI」

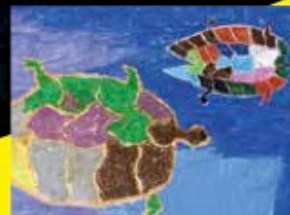
日本の代表古典「源氏物語」をリスペクト。  
京都ならではの現代の色と光と影で綴り「光の庭」として幻想的に展覧。

後期 12/15(木) ~ 12/25(日)



ヤマガミユキヒロ(アーティスト)  
「noh play (hikari no niwa)」

世界無形文化遺産である「能」をモチーフに、  
キャンバス・プロジェクション作品により園内に  
新たな能の時間・空間を紡ぐ。



みずのき美術館 x 浦崎力  
「水辺のみずのき動物園」

障害者支援施設「みずのき」で、1964年より  
続く絵画教室で生まれた作品の中から動物を  
描いた作品を選び、それらのイメージを用いて制  
作したアニメーションで動物園をつくり出します。

入場  
無料

京都府立 陶板名画の庭

GARDEN OF FINE ARTS KYOTO

ヤマハ  
「おもてなしガイド」システム  
(多言語によるガイダンス)



スマートフォンに音声をやみ  
とり、案内解説を文字  
情報として表示!

OMOTENASHI GUIDE

# 京都北山 光の庭

GARDEN OF LIGHTING ARTS  
"2020年への道" 京都・北山 温故創新プロジェクト

京都の「伝統」と「現代」がハーモナイズアップして生まれる  
「温故創新」の気風。

日本文化の水源でもある「古典」をリスペクトし、気鋭の  
アーティストによるクラシカルにしてクールな「神宿る・  
神遊び」の光の世界を、「陶板名画の庭」(設計:安藤忠雄)を  
舞台上に展開します!

2016  
11/26(土) ~ 12/25(日)  
17:00 ~ 20:00

※12月12日(月)から14日(水)は展示替えのため休業

前期 11/26(土) ~ 12/11(日)



高橋 匡太(アーティスト)  
「光の庭 SCENE of GENJI」

PROFILE <http://www.kyoto.jp>

1970年京都生まれ。1995年京都市芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。  
光や映像によるパブリックプロジェクション、インスタレーション、パフォーマンス公演など幅広く国内外で活動を行っている。  
東京駅100周年記念ライトアップ、京都・二条城、十和田市現代美術館、など大規模な建築物のライティング  
プロジェクトは、ダイナミックで造形的な映像と光の作品を創り出す。  
多くの人とともに作る「夢のたねプロジェクト」、「ひかりの宴」、「ひかりの花畑」、「Glow with City Project」など大規模  
な参加型アートプロジェクトも数多く手がけている。  
1995年キリンコンテンツアワード'95最優秀作品賞、2005年京都府美術工芸新鋭選抜展2005最優秀賞、五島  
記念文化賞美術新人賞、グッドデザインアワード2005(環境デザイン部門)、2008年京都府文化賞奨励賞、2010年  
京都市芸術新人賞、DSA日本空間デザイン賞2015優秀賞、などを受賞。

後期 12/15(木) ~ 12/25(日)



ヤマガミ ユキヒロ(アーティスト)  
「noh play  
(hikari no niwa)」

PROFILE <http://www.yamagamiyukihiro.net>

1976年大阪生まれ。2000年京都精華大学美術学部卒業  
日常で見慣れた風景を鉛筆や墨などで描いた絵画に、同一視点から撮影した映像をプロジェクターによって投影する  
「キャンバス・プロジェクション」という独自の手法により作品を制作。絵画の上に「うつろい」という時間を取り入れる  
この表現展開により、これまで数々の展覧会に参加するほか、2014年からは能楽とのコラボレーションによる  
「Noh Play」というプロジェクトに取り組み、2016年には舞台公演「noh play 2016 | Traditional Trial〜能、狂言  
プラス〜」の舞台芸術を担当するなど、幅広い活動を見ている。  
近年の主な展覧・舞台芸術としては「ロケーションハンティング」(あまらぶアートラボ・兵庫2016)、「土木展」  
(21\_21 DESIGN SIGHT・東京2016)、「noh play 2016 Traditional Trial〜能、狂言プラス〜」(札幌市教育  
文化会館)、「テンパス・フーギット・大山崎山荘とヤマガミユキヒロの視点」(アサヒビル大山崎山荘美術館・京都  
2016)、六甲ミーツ・アート芸術散歩(六甲山・兵庫2013)など多数。  
ビクトリア国立美術館(オーストラリア)のパブリックコレクションにも。  
2000年Mio写真奨励賞2000優秀賞、2008年岡本太郎現代芸術賞展特別賞、などを受賞。

●協力 / 林家一郎、左海泰弘、曾和鼓堂、田茂井廣道、樹下千魁



撮影 = 阿野太一

みずのき美術館 × 浦崎力  
「水辺のみずのき動物園」

みずのき美術館 PROFILE <http://www.mizunoki-museum.org>

障害者支援施設「みずのき」で、創立5年目の1964年に始まった「みずのき絵画教室」の作品約18,000点を所蔵  
作品とし、2012年、京都府亀岡市に開館。「みずのき絵画教室」は、講師の日本画家・西垣篤一(1912-2000)の  
丹念な指導により、重い知的障害のある人の中に眠る創造性を発見し、成長させ、日本のアール・ブリュットの草分け  
的存在として注目を集めた。みずのき美術館では絵画教室で生まれた作品の保存・研究、アール・ブリュットの考察、  
さらに地域社会に開かれたプロジェクト型の企画の3つを柱に、数多くの展覧会や企画を展開している。

浦崎力(映像作家) PROFILE

1979年千葉県市川市生まれ。発表するあてのない漫画、音楽、アニメーションを制作したりしなかったりしていたが、  
2011年末からアニメーションによるPVを細々と発表するようになる。  
主な展示に「みずのき動物園」(2015、京都芸術センター[京都])がある。

原画:みずのき美術館所蔵作品 / 映像:浦崎力 / 音楽:あしくちびる / プロデュース:中本真生(UNGLOBAL STUDIO KYOTO)

## 京都府立 陶板名画の庭

GARDEN OF FINE ARTS KYOTO

<http://kyoto-toban-hp.or.jp>

京都市左京区下鴨半木町(地下鉄「北山駅3番出口すぐ」)

主催:京都府  
共催:北山街協同組合  
協力:北山交流連携会議・みずのき美術館・ヤマハ(株)・リバーフェーズ(同)  
府民ホールアルティ・京都芸術センター・(株)ハーツ・Gallery PARC

駐車場はございません。ご来場は市営地下鉄、市バスをご利用下さい。

